

一歩間違えば…住民恐怖

党議員に訴え

3年前にも事故

「3年前にも実弾が屋根瓦を貫通した事故が起きた。戦前、戦中、戦後も含めてこういう事故が記憶にあるだけで6、7回起きています。実弾はやめるべきだ」といい続けてきた。

「不安が押し寄せてきます。実弾射撃訓練は何のためにやっているのか疑問が強くなり、ますますと話しました。」

被害車両の内部は被弾した窓ガラス破片がそのまま(森脇市議提供)



陸自砲弾で車破損

滋賀・饗庭野

窓ガラスが粉々

川村さんは、朽木漁業協同組合長として市内を走り回っていました。書類を整理しようとして、国道303号の道路脇に駐車。途端に後ろで「パシュー」という経験したことがない衝撃音が。左後方の窓ガラスが粉々に飛び散っていました。

演習場の方を見ると、30〜40分先に白煙や土煙が立ち上っていました。車の左ドア3、4カ所に弾痕のような穴が開き、左後ろの雨除けのドアパイプが割れて亀裂が走っていました。

滋賀県高島市の陸上自衛隊饗庭野(あいはら)演習場から発射された迫撃砲弾が演習場境界の国道近くに落下、一般車両が破損した事故から2日。被害者や周辺住民は、日本共産党の森脇徹、福井節子両市議員に「屋根を貫通した3年前とは違う。一歩間違えば死んでいた」「怖くてたまらない」と命の危険を訴えました。(遠藤寿人)



「安心して走れるようにしてほしい」と語る、被害者の川村長太郎さん(森脇市議提供)

「実弾演習やめるべきだ」

町議 会長 元議

国・防衛省に抗議せよ

党県委・県議団 知事に要請

自民党で旧今津町議会議長を務めた中村助信さん(90)は「この饗庭野は実弾射撃訓練ができる演習場じゃない」と述べ、こう憤ります。

「不安が押し寄せてきます。実弾射撃訓練は何のためにやっているのか疑問が強くなり、ますますと話しました。」

「これはただならぬ」と市役所や警察に通報。「自分はここにいていいのだろうか。次に何が起るか分からない、おそろする自分があった」。日常感じられない身の危険を感じ、車に戻りました。こんな大変な事態なのに砲撃音は、さらに1時間ほど続いていたと話します。

日本共産党滋賀県委 党県委・県議団は16日、高島市の自衛隊饗庭野(あいはら)演習場から発射された砲弾が市民の車を損傷させた事件で、三日月大造知事に申し入れ書を提出しました。佐藤こうへい参院滋賀選挙区候補、節木三千代、杉本敏隆、藤井三恵子の各県議、きのせ明子県議候補が行いました。

「住民の命をないがしろにする対応であって断じて許されないと訴えました。」

川村さんの2、3台後ろを走っていた男性(54)は、事故の直後に通りかかりました。左方向に20〜30分の煙が上がった瞬間、「山火事だ」と思いながら走り抜けました。振り返ると、煙が収まりつつあったので「これは火事ではない。何かが起こったな」と思いました。1時間後同じ場所を通ったら、警察、自衛隊関係者が集まっていました。

党議員が周辺住民の聞き取りに入るなか、



県民の命を脅かす重大な事件であり、強く抗議する▽事件の全容を市民に明らかにする